

CASBEE神戸 ver.2 (仮称)国際くらしの医療館・神戸		欄に数値またはコメントを記入		■使用評価マニュアル: CASBEE神戸 ver.2 ■評価ソフト: CASBEE神戸 ver.2 / CASBEE-BD_1		
スコアシート 実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質						3.3
Q1 室内環境			0.39			3.5
1 音環境		3.4	0.15	-	-	3.4
1.1 騒音		3.0	0.40	-	-	
1.2 遮音		4.2	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能	T-2以上	5.0	0.60	3.0	-	
2 界壁遮音性能		3.0	0.40	3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0	-	
1.3 吸音		3.0	0.20	3.0	-	
2 温熱環境		3.1	0.35	-	-	3.1
2.1 室温制御		3.3	0.50	-	-	
1 室温		3.0	0.38	3.0	-	
2 外皮性能		3.0	0.25	3.0	-	
3 ゾーン別制御性	方位毎・ゾーン毎で室外機系統分けし冷暖選択を可能としている	4.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御		3.0	0.20	3.0	-	
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0	-	
3 光・視環境		4.0	0.25	-	-	4.0
3.1 昼光利用		4.2	0.30	-	-	
1 昼光率	昼光率2.6%(基準階)	5.0	0.60	3.0	-	
2 方位別開口		-	-	3.0	-	
3 昼光利用設備	開口部を大きくとり明るさセンサーによる昼光利用を行っている	3.0	0.40	3.0	-	
3.2 グレア対策		3.0	0.30	-	-	
1 昼光制御		3.0	1.00	3.0	-	
3.3 照度	主要室の設計照度を500Lx以上としている	4.0	0.15	3.0	-	
3.4 照明制御	明るさセンサーによる調光制御、4、5シーンスイッチによる調光制御	5.0	0.25	3.0	-	
4 空気質環境		3.5	0.25	-	-	3.5
4.1 発生源対策		3.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質		3.0	1.00	3.0	-	
2 アスベスト対策		-	-	-	-	
4.2 換気		4.0	0.30	-	-	
1 換気量	建築基準法20CMH/人に対し25CMH/人で計画	4.0	0.33	3.0	-	
2 自然換気性能		3.0	0.33	3.0	-	
3 取り入れ外気への配慮	給気と排気の方角を変えている	5.0	0.33	3.0	-	
4.3 運用管理		4.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視		3.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御	非喫煙、喫煙所なし	5.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	3.5
1 機能性		3.4	0.40	-	-	3.4
1.1 機能性・使いやすさ		3.3	0.40	-	-	
1 広さ・収納性		3.0	0.33	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応		3.0	0.33	3.0	-	
3 バリアフリー計画	建築物移動等円滑化基準チェックリスト適用	4.0	0.33	-	-	
1.2 心理性・快適性		3.6	0.30	-	-	
1 広さ感・景観	1人当たりの執務スペース 8.68㎡/人	4.0	0.33	3.0	-	
2 リフレッシュスペース	リフレッシュスペース17% 自販機	4.0	0.33	-	-	
3 内装計画		3.0	0.33	-	-	
1.3 維持管理		3.5	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保	清掃控室・用具室の設置、清掃用流しの設置、ゴミスペースの確保、	4.0	0.50	-	-	
3 衛生管理業務		-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性		3.3	0.30	-	-	3.3
2.1 耐震・免震		3.0	0.50	-	-	
1 耐震性		3.0	0.80	-	-	
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.7	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	20年	4.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	高温系排気ダクト(排蒸)をステンレス製としている	5.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水:VLPまたはHVP、給湯:SUS、排水:VPで計画している	5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	

2.4 信頼性			3.8	0.20	-	-	-
1	空調・換気設備	滅菌機器の排気を発電機保安回路で計画している	4.0	0.20	-	-	-
2	給排水・衛生設備	節水型便器、汚水槽、2槽式受水槽、受水槽の緊急遮断弁	5.0	0.20	-	-	-
3	電気設備		3.0	0.20	-	-	-
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	-
5	通信・情報設備	光ケーブルとメタルケーブル	4.0	0.20	-	-	-
3 対応性・更新性			3.7	0.30	-	-	3.7
3.1 空間のゆとり			4.2	0.30	-	-	-
1	階高のゆとり	階高2.8m	5.0	0.60	3.0	-	-
2	空間の形状・自由さ		3.0	0.40	3.0	-	-
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	3.0	-	-
3.3 設備の更新性			4.0	0.40	-	-	-
1	空調配管の更新性	点検口から冷媒配管敷設	4.0	0.20	-	-	-
2	給排水管の更新性	テナント部分の給排水の将来対応を実装(床上で対応可能)	4.0	0.20	-	-	-
3	電気配線の更新性	分電盤2次側はOAフロア対応	5.0	0.10	-	-	-
4	通信配線の更新性	空配管対応と各階OAフロア対応	5.0	0.10	-	-	-
5	設備機器の更新性	屋上に将来用機械スペースと搬入ルートを確認	4.0	0.20	-	-	-
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.31	-	-	3.0
1	生物環境の保全と創出		2.0	0.30	-	-	2.0
2	まちなみ・景観への配慮		3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			4.0	0.30	-	-	4.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	ピロティの設置、北側テラス設置、死角のない空間	4.0	0.50	-	-	-
3.2	敷地内温熱環境の向上	風の状況の把握、緑地の確保、設備排熱位置の配慮	4.0	0.50	-	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.5
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.8
1	建物外皮の熱負荷抑制	BPI _m =0.86(ペアガラスの採用、外ルーバーによる日射遮蔽)	4.0	0.18	-	-	4.0
2	自然エネルギー利用	外気冷房、大開口外壁と明るさセンサーによる昼光利用	3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			4.0	0.51	-	-	4.0
	BEI _m 非住宅 0.68 住宅(専有部) -		4.0	1.00	-	-	-
	集合住宅以外の評価(3a.3b)	省エネ法計算による	4.0	-	-	-	-
	集合住宅の評価(3c)		-	-	-	-	-
4 効率的運用			4.0	0.20	-	-	4.0
	集合住宅以外の評価		4.0	1.00	-	-	-
4.1	モニタリング	各種計量を実施(各分電盤毎、各階給水・給湯、各階空調、電力・ガス)	4.0	0.50	-	-	-
4.2	運用管理体制	省エネ手法提案を実施のうえ採用技術を採用	4.0	0.50	-	-	-
	集合住宅の評価		-	-	-	-	-
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	-
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.3
1 水資源保護			2.2	0.20	-	-	2.2
1.1	節水		1.0	0.40	-	-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	-
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	-
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	-
2 非再生性資源の使用量削減			3.6	0.60	-	-	3.6
2.1	材料使用量の削減		3.0	0.11	-	-	-
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.22	-	-	-
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	電炉材	5.0	0.22	-	-	-
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	断熱材・ビニル床材	4.0	0.22	-	-	-
2.5	持続可能な森林から産出された木材		-	-	-	-	-
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み		3.0	0.22	-	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.20	-	-	3.3
3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.30	-	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避			3.5	0.70	-	-	-
1	消火剤		-	-	-	-	-
2	発泡剤(断熱材等)	ODP=0、GWP=3	4.0	0.50	-	-	-
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	-
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.4
1 地球温暖化への配慮		一般的な建物と同等	3.9	0.33	-	-	3.9
2 地域環境への配慮			3.5	0.33	-	-	3.5
2.1	大気汚染防止		3.0	0.25	-	-	-
2.2	温熱環境悪化の改善	卓越風の把握、地表面被覆、屋根面対策	4.0	0.50	-	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-	-
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	-
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	-
3	交通負荷抑制	駐車場の確保	4.0	0.25	-	-	-
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25	-	-	-
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	-
1	騒音		3.0	1.00	-	-	-
2	振動		-	-	-	-	-
3	悪臭		-	-	-	-	-
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	-
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	-
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	-
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	-
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	-
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	-
2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	-